

## 論文特集「知的対話システム」編集にあたって

駒谷 和範

(大阪大学)

東中 竜一郎

(NTT)

2014年1月に同名の論文特集を編集して以来、対話システム業界はさらに盛り上がりを見せている。2014年初夏にローブナー賞にてチューリングテストを突破したとされるプログラムがニュースになったり、人間と会話するロボットが安価で市販されたりするなど、さまざまな話題が取り上げられている。これに加え、スマホ上でテキストによりシステムと雑談するアプリなども複数リリースされている。第3次ともいわれる人工知能ブームの到来も含め、対話システム分野への期待は依然大きい。

研究コミュニティにおいても、音声、自然言語、ロボット、エージェントと、さまざまな分野に散在している対話システム研究を集め、意見交換を行う場の創出が続けられている。2010年より本会の言語・音声理解と対話処理研究会(SIG-SLUD)を中心に継続している対話システムシンポジウムは、本年度、参加者が182名へと急増した。本会全国大会では、2011年よりオーガナイズドセッション「知的対話システム」を継続しており、ここでの総合討論から、評価型ワークショップ「対話破綻検出チャレンジ」という新たな試みが開始された。

本論文特集は、これらの取組みの一環として企画した。評価尺度の選定や評価データの確保が難しいという対話システム研究の特性を鑑み、提案手法の有効性を定量的評価以外の手段で示した論文も歓迎する旨を、前回に引き続き明記した。また、対話システムの社会への広がりを考慮し、企業で活躍する研究者に、新たに編集委員として加わっていただいた。

本論文特集には18本の論文が投稿され、8本が本会論文誌の採録レベルを満たすと判定された。6本はそのまま採録となり、著者が英文誌NGC(New Generation Computing)での公開を希望した2本はさらなる編集過程に進んでいる。全8本のうち、テキスト対話システムに関する論文が6本と多かったが、音声対話エージェントに関する論文が1本、対話ロボットに関する論文も1本あり、異なる入力モダリティをもつ対話システムの論文が採録とされている。テキスト対話に関する論文が多いのは、対話破綻検出チャレンジに代表される、雑談対話システムに関する研究の盛り上がりを反映していると思われる。また、システムのパーソナリティやキャラクタを扱う論文や、ユーザがもつ情報や嗜好を扱う論文も複数採録とされている。これは、入力を解析し応答する

という技術に加え、システムのキャラクタ設定に基づく応答やユーザに合わせた応答など、システムが一貫した主体であること・ユーザが対話相手として扱われていることを、ユーザに感じさせる必要性を示唆している。一問一答型の応答システムとは異なり、対話は本来複数の発話の列からなるものであることから、個々の発話の生成だけではなく、発話の列を生成するシステム全体の設計論が、今後さらに重要な課題になると予想される。

編集委員会での審議では、実験に不十分な点があったとしても、その時点での実験から何が言えるのかを評価する方向で議論が行われた。また、1名の査読者が不採録と判定した場合でも、照会により採録となる可能性がある論文については、照会事項を精査したうえで、照会とした。残念ながら採録に至らなかった論文の中には、新たなタイプの対話システムの提案や、既存の対話システムを組み合わせて雑談対話システムを構築する試みなど、興味深いテーマが見られた。ただし、実験結果と論文の主張に齟齬がある場合などには、編集期間が限られていることもあり、今回は不採録と判定した。不採録となった論文についても、コメントを検討したうえで、再投稿いただきたいと考えている。

本論文特集の査読プロセスは、締切がタイトであるにもかかわらず、非常にスムーズに進行した。編集委員各位、査読者各位の多大なる尽力に深く感謝する。本論文特集が、日本における対話システム研究を盛り上げるための一助となることを願っている。

論文特集「知的対話システム」編集委員会(敬称略)

編集委員長: 駒谷和範(大阪大学)

副編集委員長: 東中竜一郎(NTT)

編集幹事: 翠輝久(HRI-US), 岡田将吾(東京工業大学)

編集委員: 荒木雅弘(京都工芸繊維大学), 伊藤敏彦(北海道大学), 稲葉通将(広島市立大学), 桂田浩一(豊橋技術科学大学), 菊池英明(早稲田大学), 颯々野学(ヤフー(株)), 辻野孝輔(アマゾン), 堂坂浩二(秋田県立大学), 徳久良子(豊田中央研究所), 中野幹生(HRI-JP), 林佑樹(大阪府立大学), 平山高嗣(名古屋大学), 藤江真也(千葉工業大学), 船越孝太郎(HRI-JP), 松原茂樹(名古屋大学), 南泰浩(電気通信大学), 李晃伸(名古屋工業大学)